

# 川崎医療短期大学

## 学報 No.111

### 特集 岡山キャンパス始動

- 学長巻頭言／学科長からのメッセージ
- 看護学科トピックス
- 医療介護福祉学科トピックス
- 犯罪被害者講演会／スポーツ大会／防災訓練
- 2021年度 年間キラリ賞表彰式／協定会報告／新任教職員紹介
- 川崎エコアクション／インフォメーション

新着



## 学長巻頭言

# 岡山キャンパス新校舎棟 運用開始にあたって

学長 秋山 祐治



2022（令和4）年4月から、待望の岡山キャンパス新校舎棟の運用が始まりました。立地だけでなく施設・設備も更新されたことから、学生の皆さんは新たな気持ちで大学生活を送ってくれているものと思います。前年度から少しずつ準備をしてきたとはいえ、年度末に国家試験対策や卒業式の準備などと並行しながらの引っ越し作業は大変でしたが、学生・教職員の協力の下で何とか無事にスタートすることができました。この場をお借りして、関係者に改めて御礼申し上げます。

隣接する川崎医科大学高齢者医療センターや新しい学生寮「中山下レジデンス」の建築も順調に進んでおり、はす向かいに立地する川崎医科大学総合医療センターとともに岡山キャンパスの全容が見えてきました。看護学科、医療介護福祉学科の学生教育に最適な環境が整いつつあると感じています。

さて、新校舎棟の運用開始前後に地元の町内会や商店街連合会にご挨拶に伺いましたが、いずれも医療短大を快く受け入れてくださり、多くの学生が集うことに期待されていました。近年は市の中心部に高層マンションの建設が進むなど以前のドーナツ化現象とは状況が変わってきているものの、近隣の高齢化は確実に進んでいるため、地域の活性化に向けて医療短大への期待は大きなものがありました。7月に医療介護福祉学科が中心となって開催した公開講座に地域から多くの参加者があったのも、その証左の一つであり、今後も地域連携・社会貢献に尽力していきたいと考えています。地域活動への学生の参画についても、学生部や学友会を中心に検討しているところです。

新しい校舎内の様子ですが、講義室や実習室のレイアウトが変わったため、上級生や教員には戸惑いがあったかもしれません。スクリーンやホワイトボードの見え方やワイヤレスマイクの電池切れなど、設計段階では気付かなかったことも出てきて対応に追われました。一方で、看護実習室のパーテーションは2つの実習を並行して実施できるなど有効に活用されおり、機器が更新された入浴実習室も好評です。今後も、学生が学修成果を獲得できるよう、適切な環境整備を行っていききたいと思います。福利厚生設備部分については、更衣室のパウダースペースや温水洗浄便座の設置など、旧校舎で懸案となっていたアメニティ部分の改善が図られました。また、4階のラウンジスペースではSora Cafeで日替わりランチや軽食が提供され、憩いの場となっています。感染症対策として座席数を減らしているため昼食時はやや混雑していますが、普段は自習スペースとして利用している学生も少なくありません。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響は続き、第6波から第7波の感染拡大期には陽性者が増加しましたが、一人ひとりの対策意識の高さにより、学内での感染拡大は見られず、無事に講義や実習を継続することができています。これからも新しいキャンパスで安心・安全な学生生活が送れるように、努めていきたいと思っています。

## 学科長からのメッセージ

### 看護学科



継灯式



継灯式後の記念撮影



人体の構造と機能 講義



成人看護学実習

(撮影のためアイガードを外しています)

## 新校舎でのキャンパスライフ ～各学年の学びと成長～

学科長 岡田 みどり



2022年度は、岡山キャンパスへの移転という記念すべき年であると同時に、10年ぶりの指定規則改正で、新カリキュラムがスタートした年でもあります。学生たちは、地域包括ケアの推進など高齢化社会における地域の医療ニーズを見据え、基礎から体系的に学んでいきます。その第一歩となる新科目「看護フィールドワーク論」が、1年次の10月に開講されました。初めて学外での学習に臨んだ学生たちにとって、地域特性を理解し、人々にもたらす生活面や健康面への影響を考える貴重な機会となりました。

2年生は、「基礎看護学実習Ⅱ」を前に、10月29日に継灯式を行いました。コロナ禍でこの2年は規模を縮小しましたが、県外移動の制限緩和もあって、今年度は保護者にも参加していただきました。当日には100名の方が来学され、初めて見る我が子の白衣姿に感慨もひとしおだったのでしょうか。式典後にはナイチンゲール像の前で記念撮影をする親子の姿も見られました。3年生は、9月末に領域別実習を修了し、半年にわたる実習を振り返って看護観をまとめ発表しました。コロナ禍での実習では、患者との関わりや援助活動に制限があり、十分な看護を提供できたか不安との声も聞かれました。しかし、ケアや関わりを通して患者と向き合うこと、個別性に合わせた看護の重要性など、多くの気づきと経験を共有することができました。

このように、学生たちはそれぞれの学年で段階的な成長を遂げており、新しいキャンパスで充実したキャンパスライフを送っています。

### 医療介護福祉学科



教室での学び



介護実習室 演習風景



医療専門職による講義



学園祭

## 岡山キャンパスだからできる 学びが始まりました!!

学科長 山田 順子



医療介護福祉学科は、これまでの介護福祉士教育を基に、2021度から3年制に移行しました。現在、1年生と2年生が岡山キャンパスの新校舎で学んでいます。

校舎内の介護実習室、入浴実習室を見て、「すごい!!きれい!!」と感動した学生たちは、利用者さんの自立支援や安全・安楽など介護の理念を実践に移せるよう自主練習に励み、ロールプレイを取り入れた演習を通して実践力を高めています。

3年制のカリキュラムでは、チーム医療の一員として介護福祉士に求められる知識・技術を習得する「保健医療サービス」「口腔機能管理」が2年次に開講されており、川崎医科大学、川崎医療福祉大学、川崎医科大学附属病院、川崎医科大学総合医療センターから専門の先生にお越しいただき、多職種と連携するうえで必要となる知識、技術を学びます。例えば、フットケアを専門とする看護師から学ぶ泡足浴、口腔機能管理で学ぶ口腔ケアや嚥む機能を回復することの大切さ、嚥下機能の低下を防ぐ飲み込みの訓練などを通じて、実習のときに利用者さんにさまざまな楽しみを届けられるようにしています。

学生たちは、勉強だけでなく、スポーツ大会や学園祭の仮装パフォーマンスに学年を超えて協力しながら参加したり、空きコマには岡山キャンパス周辺の散策もしながら、学生生活も楽しんでいます。

来年度には、3年次の病院実習が始まります。新キャンパスでこれまで以上に「医療に強い」介護福祉士を目指して、学生たちは頑張っています。

# 看護学科トピックス

## 公開講座

11月5日(土)に、令和4年度第2回公開講座を実施しました。

今回は「暮らしに活かす看護の知恵-安全に食べて元気に暮らす」(講師:看護学科教授 黒田 裕子)と題して、むせと嚥下に関する話題を取り上げました。講座は2部仕立てで、前半にはむせの原因と誤嚥との関係、嚥下や誤嚥のしくみ、誤嚥の社会問題などを一般の方にもわかるよう平易な言葉遣いと内容で説明しました。後半にはむせや誤嚥を防ぐための姿勢や唾液を出しやすくするマッサージ、嚥下の力を鍛える体操を実演しながら解説し、会場の方にも一緒に実施していただきました。最後に行った嚥下体操では、オクラホマミキサーの「薬の中の七面鳥」や

童謡「ふるさと」などの慣れ親しんだ曲に合わせて、手遊びを交えた嚥下体操を行い、楽しみながら嚥下力を高める体験をしていただきました。

誰にでも経験のある「むせ」がテーマだったためか、皆さん熱心に聞いてくださり、嚥下体操では曲と動画に合わせて一齐に手拍子や発声を行うなど、会場全体が一体化して盛会のうちに終了することができました。(看護学科 黒田 裕子)



## 看護フィールドワーク論

看護学科のカリキュラム改正に伴い、今年度から「看護フィールドワーク論」という科目を1年次の10月に開講しました。2025年問題を見据え、厚生労働省は地域包括ケアシステムの構築を推進しています。これを受けて、この科目では地域での看護活動の概念を学び、フィールドワークを通して地域特性を理解し、地域における看護の役割、視点を学ぶことをねらいとしています。

今年度は、フィールドワークを2種類行いました。一つは岡山市の8か所の地域包括支援センターで、看護師をはじめ職員の方々の活動を見学しました。もう一つは大学周辺を地区踏査して地域の特性を踏まえた地図を作

成し、地域の人々の生活や健康を看護の視点から考えました。学生はどちらか一方の演習を行い、グループごとに演習内容をまとめ、最終日にはパワーポイントを用いた発表を行って学びを共有しました。病院での看護だけでなく、地域も含めた看護の視点を持つ重要性が理解できたのではないかと思います。



(看護学科 三宅 映子)

### おかやまマラソン医療ボランティア

### BLS講習会

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で3年ぶりの開催となる「おかやまマラソン」において、医療ボランティアとして参加する学生のための「BLS (Basic Life Support) 講習会」が、10月13日(木)に200号看護実習室で行われました。

講習では、BLSアルゴリズム(手順)に関するレクチャーの後、人形を使ったトレーニングを行いました。受講学生は、実践しながら、2人1組となって心肺蘇生(特に胸骨圧迫法)とAEDの操作に取り組み、人の命を救うための判断を勇気をもって行う覚悟の必要性や、一つひとつの声かけと動作の意味を確認しました。

学生にとって初めて経験することも多かったようですが、命の重みを再認識し、医療ボランティアとして参加することの意義を理解することができていました。患者様のいのちを支える看護師になるためにも、貴重な経験であったと思います。



(BLS講習会担当 重田 崇之)

## 医療介護福祉学科トピックス

## 公開講座

7月16日(土)に、令和4年度第1回公開講座が開催されました。今回のテーマは「あらためて知りたい! 認知症と人とのかわり方」で、川崎医科大学認知症学教室の和田 健二教授、本学医療介護福祉学科の山田 順子教授が講演を行いました。当日は、100人を超える方々にご参加いただきました。

講座では、認知症の原因や症状などの基本的なことから、認知症を患っている方の想いや認知症の方への関わり方などが紹介されました。例えば、道が分からなくなった時などに大きな不安を感じられますから、そのような時には、視線を合わせ、ゆっくりと

した口調で声をかける必要があります。認知症ケアの第一歩は、その方を知って、「できる力」に目を向け、気持ちに寄り添いながら関わっていくことです。今回の講座では、このような関わりについて学んでいただくことができたとと思います。講演終了後には多くの参加者の方から質問が寄せられ、認知症に対する関心の深さを改めて認識することができました。



## 実習開始式

6月6日(月)に、実習開始式が挙行されました。これは、医療介護福祉学科の2年生が、3週間の介護実習の前に介護福祉士の道に進む決意を表明する儀式です。

はじめに、新見 明子副学長から、今の気持ちを忘れずに利用者さんと真摯に向き合い、実習に取り組んでほしいと、激励のお言葉をいただきました。学生たちは、これまでの学びを通して芽生えた介護福祉士を志す者としての自覚を胸に、実習に対する決意を一人ずつ宣誓しました。

特別講師として淳風福祉会 特別養護老人ホーム 若宮園の介護指導主任 沖中 純子さんをお招きし、

実習生としての心構えを講演していただきました。沖中さんは、初めての集中実習に向けて、学びたいと思う気持ちが大事だということ、実習生を一番見ているのは利用者さんであること、実習が楽しくなると素敵な笑顔が自然と出てくることなどを話してくださいました。学生たちは緊張感と期待に満ちた表情で講話に聴き入っていました。介護の道を目指す決意を新たにす式典となりました。



## 介護チャレンジセミナー

## ～目からウロコ 介護のスゴ技～

患者さんの想いに寄り添う介護福祉士の仕事を一般の方々に広く知っていただくことを目的として、8月27日(土)に、「介護チャレンジセミナー ～目からウロコ 介護のスゴ技～」を開催しました。セミナーには、岡山市内の小・中・高校生とその保護者の方が参加してくださいました。

手洗い体験では、正しい手洗いの方法を紹介しました。身体の動きを活用したボディメカニクスの体験では、少しのコツで小・中学生が体格差のある保護者を軽々と動かすことができ、その瞬間、「すごい!」

という声が上がりました。他にも、電動車いすやリフトなどの福祉用具の体験、介護や介護福祉士に関するクイズ、病院で働く介護福祉士の紹介なども行いました。参加者の皆様からは「介護福祉士の仕事内容がよく分かった」「介護福祉士の道も考えてみようと思った」「家庭のいろいろな場面で使ってみたい」などの感想をいただきました。介護の魅力を多くの方に知っていただけるよい機会となりました。



(医療介護福祉学科 大岩 真帆)

## 犯罪被害者 講演会

### 保健医療福祉概論 「犯罪被害者の声」

7月4日(月)の保健医療福祉概論の授業において、「歩(あゆみ)と生きる」と題し、犯罪被害者のご遺族である中谷 加代子さんを迎え、講演会を開催しました。

中谷さんは16年前に、当時20歳の長女の歩さんを亡くされました。なぜ事件が起きたのかと考える中で、犯人の少年が自分の人生や生きること、そして相手のことを大切に思っていたら事件は起こらなかったのではないかということに気づかれたそうです。そして、被害者遺族に接するときは、その人の持っている力を信じ、寄り添うことが大切だとお話してくださいました。学生に向けて「幸せを感じていますか」と問いかけられ、一人ひとりが幸せを感じることで加害者も被害者も出さない社会になることを願っておられました。

犯罪被害者やそのご遺族に対して、私たちにできることは何かを考える貴重な時間となりました。(教務委員会)



## スポーツ大会

5月21日(土)に倉敷松島キャンパスの体育館で、学友会主催のスポーツ大会が開催されました。今年度は岡山キャンパスに移転後初の大会となりました。看護学科、医療介護福祉学科の合計8チーム、127人の学生が参加し、ドッジボールをして汗を流しました。優勝は看護学科1年生Bクラス、準優勝は看護学科2年生Bクラスで、両チームには協賛会から金一封が贈呈されました。また、3位の看護学科2年生AB合同クラスには、同窓会からお菓子の詰め合わせが贈られました。コロナ禍で学校生活に制限がある中、久しぶりに多くの学生が一体となって身体を動かし、はつらつとプレイしていました。クラスの団結力も強まった様子で、大会の意義を感じました。

(学生生活支援委員会 三宅 映子)



## 2022年度防災訓練

6月4日(土)に、岡山市に移転して初めての防災訓練を実施しました。このころはまだ、学生も教職員も校舎内で行き先を見失ってしまうような時期でもありました。

そこで今回は、火災を想定し、避難経路と避難場所を認識・体感したり、非常警報パネルの操作方法を知ったりするなど、災害時の安全確保のために必要不可欠なことの体験から始めました。それと合わせて、教職員は、学生が建物の外に出るためにかかる時間や近くの交差点を一度に渡ることでできる人数などを確認し、今後の避難計画のためのデータ集めも行いました。

新しい地域・新しい施設で慣れないことも多い毎日ですが、防災や安全を意識するよい機会となりました。

(学生生活支援委員会 黒田 裕子)



## 2021年度 年間キラリ賞表彰式

年間キラリ賞は1年間の学生生活の中で、医療福祉人として勉学のみならず、学校行事への協力や社会活動でもきりと頑張りを見せた学生に贈られます。2019年度から始まった表彰制度で、今年度は3回目となりました。新校舎のきれいな部屋で6月4日(土)に表彰式が開催されました(卒業生は表彰済みです)。

表彰式では教職員と一部の学生の参列のもと、秋山 祐治学長からその功績を称えて表彰状と記念品が授与され、ますますの活躍を期待するとの激励の言葉をいただきました。栄えある受賞者は次のとおりです(2021年度の学年で表記しています)。

2年生の田邊 愛美さんは2度目の受賞となりました。

(学生生活支援委員会 太田 栄子)



### 看護科

1年生	前田 桜子	2年生	関 真心
	家原 萌々子		田邊 愛美
	世古 蘭々		松本 桃子

### 医療介護福祉科

1年生	藤原 真織
-----	-------

## 協会報告

### 令和4年度 川崎医療短期大学 協会役員

会長	塩田 裕美 (看護学科3年)
副会長	宮崎 由佳 (看護学科2年)
副会長	秋山 祐治 (川崎医療短期大学学長)
監事	横山 功 (医療介護福祉学科2年)
監事	光畑 美希 (医療介護福祉学科1年)
評議員	戸田 佑紀子 (看護学科1年)
他 学内評議員5名	

### 令和3年度収支決算書及び令和4年度収支予算書

4月4日の入学式終了後に開催された令和4年度協会総会において、下表の令和3年度収支決算書及び令和4年度収支予算書が承認されました。これにより、今年度も学生の皆さんの学習、福利厚生、学生生活及び進路等に関する諸活動についての支援が行われます。

#### 令和3年度 川崎医療短期大学協会収支決算書

一般会計 (円)			
収	入	支	出
会費	4,020,000	学生研修助成費	356,040
前年度繰越金	3,544,938	厚生福利費	311,264
雑収入	0	学生生活指導費	1,175,280
		進路指導助成費	528,000
		渉外費	0
		事務費	164,194
		雑費	2,450
		予備費(コロナ対策経費)	322,560
		次年度繰越金	4,705,150
合計	7,564,938	合計	7,564,938

特別会計 (円)			
収	入	支	出
前年度繰越金	7,003,402	次年度繰越金	7,003,541
雑収入(預金金利)	139		
合計	7,003,541	合計	7,003,541

#### 令和4年度 川崎医療短期大学協会収支予算書

一般会計 (円)			
収	入	支	出
会費	3,930,000	学生研修助成費	1,612,000
前年度繰越金	4,705,150	厚生福利費	505,000
		学生生活指導費	1,107,000
		進路指導助成費	660,000
		渉外費	100,000
		事務費	100,000
		雑費	7,000
		予備費	4,544,150
合計	8,635,150	合計	8,635,150

特別会計 (円)			
収	入	支	出
前年度繰越金	7,003,541	次年度繰越金	7,003,741
雑収入	200		
合計	7,003,741	合計	7,003,741

※特別会計は、教育・実習のための施設設備及び学生のために特に必要なものを備えることを目的とした積立金です。

## 新任教職員紹介

新しく本学の仲間になった教職員の方々を紹介します。



### 杉山 斉 医療介護福祉学科 教授

学生の皆さんが在学中に、標準的な医学知識を身につけることができるよう、お手伝いしたいと思います。充実した学生生活を送るとともに、将来の医療従事者として活躍するために頑張っていきたいと思います。



### 妹尾 麻以 看護学科 助教

看護師は、人とのかわりの中で自分も成長できる素晴らしい職業です。看護師になるという夢に向かって頑張っている皆さんの学生生活を応援したいと思っています。共に考え学び、成長していきましょう。



### 藤井 惇子 看護学科 助教

講義や実習を通して精神看護領域の魅力や難しさを学生の皆さんに伝えたいと思っています。学業では大変なこともあるかと思いますが、皆さんが充実した学生生活を送ることができるようサポートさせていただきます。



### 村井 絹枝 看護学科 助教

看護は人の命を預かる仕事です。そのため、つらいことや乗り越えなければいけないこともあるかもしれません。でも、その先に皆さんが思い描いた看護師としての未来の自分が待っています。それぞれの“なりたい看護師”を目指して頑張りましょう。



### 大岩 真帆 医療介護福祉学科 助教

介護福祉士として高齢者施設で勤務をしてきました。現場での経験を生かし、介護のやりがいや楽しさを伝えていきたいと思っています。想いに寄り添える介護福祉士を目指して、共に考え、学んでいきましょう。



### 岸本 英里 医療介護福祉学科 助教

介護福祉士としての通所介護での経験を生かし、介護の楽しさや奥の深さ、様々なことを皆さんに伝えていきたいと思っています。相手のことを想い、寄り添うことのできる介護福祉士を目指して、共に考え、成長していきましょう。



### 池上 舞 事務室 事務職員

6月に川崎医療福祉大学から異動してまいりました。事務的な部分で学生の皆さんの大切な学生生活のサポートができればと思っています。困ったことがありましたらお気軽に事務室に来てくださいね。



### 高月 由美 健康支援室 養護職員 看護学科 特任講師

皆さんに必要な健康診断実施やフォローをスムーズに行い、けがや体調不良時には速やかな対応に努めています。気軽に相談に訪室していただけるよう3階健康支援室のドアを開放していますので、ぜひお越しください。また、10月から皆さんの実習や演習に参加し、実践で困らないよう援助させていただきます。共に頑張っていきたいと思います。

地球温暖化対策ワーキンググループだより

NO. 47

## 川崎エコアクション

### eco 通勤



今年度、岡山市北区中山下に新校舎棟が開設されたのを機に、私は乗用車から電車に通勤方法を変更しました。鉄道は他の交通機関と比較すると、エネルギー効率に優れ、地球にやさしい乗り物であり、単位輸送量当たりの二酸化炭素排出量は乗用車の約7分の1だそうです(国土交通省ホームページ「運輸部門における二酸化炭素排出量」による)。また、最寄り駅までの移動手段は徒歩です。慣れないうちは徒歩と電車での通勤に疲労を感じることもありましたが、朝は気持ちよく歩くことができ、少しは運動不足解消にもつながっていると思います。先日、テレビで「ポイ活」の特集がありました。歩くだけ、移動するだけでポイントが貯まるアプリがあるそうなので、楽しみながらエコアクションを続けていきたいと思っています。



JR岡山駅

(看護学科 藤井 弓加)

## 2021年度 国家試験結果と進路状況

3月末に2021年度国家試験合格発表があり、結果は下表のとおりでした。全国合格率を上回る好成績を収め、医療介護福祉学科は5年連続100%合格を達成しました。

就職については、就職希望者137名全員が就職し、就職率は100%、進学については、高知大学等の国公立大学へ2名、川崎医療福祉大学へ1名、助産師養成校へ1名でした。各学科の最新情報は、本学ホームページをご覧ください。

	看護学科	医療介護福祉学科
試験	看護師	介護福祉士
試験日	2月13日	1月30日
合格発表日	3月25日	3月25日
全国平均(%)	91.3	72.3
合格率(%)	<b>97.7</b>	<b>100</b>

## 主要行事(1月~3月)

1月	16日	看護学科1年基礎看護学実習1(～21日)
	20日	川崎学園防災の日
	26日	後期定期試験
2月	1日	一般選抜前期入試(～2日)
	3日	後期定期試験
	12日	第112回看護師国家試験
	16日	在学生健康診断(21日・22日)
3月	10日	一般選抜後期入試
	15日	卒業証書・学位記授与式
	26日	3校合同オープンキャンパス
	28日	看護学科2年生健康診断[レントゲン撮影・尿検査](～30日)

## 令和4年度 補助金・助成金の採択状況

研究代表者	看護学科 掛屋 純子	名称	科学研究費助成事業 若手研究 『前立腺がん患者のService Gap尺度の開発と信頼性・妥当性の検討』
研究代表者	医療介護福祉学科 杉山 斉	名称	科学研究費助成事業 基盤研究(C) 『尿管管特異的保護機構発現による糖尿病性腎臓病の新たな治療戦略の構築』
研究代表者	医療介護福祉学科 常国 良美	名称	科学研究費助成事業 基盤研究(C) 『成人期以降の在宅重症心身障がい者を介護する家族の望む看取りを促す看護実践プロセス』
研究代表者	医療介護福祉学科 居村 貴子	名称	公益財団法人 日本科学協会 笹川科学研究助成 『介護福祉士養成における教育プログラムの強化 -他職種との連携で必要となる知識獲得のために-』
研究代表者	看護学科 河畑 匡法	名称	一般社団法人 日本私立看護系大学協会 若手研究者研究助成 『コロナ禍での臨地実習における短期大学生の自己調整学習および社会的スキルと実習適応感との関係』

## 川崎医療短期大学学報 「若きいのち」(111号)

2022年12月発行

編集発行: 学報作成ワーキンググループ

熊野 一郎(看護学科・責任者)

見尾 久美恵(看護学科)

大岩 真帆(医療介護福祉学科)

小池 香里(事務室・書記)

写真協力: 二葉写真館

編集: 友野印刷株式会社

皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒700-0821 岡山市北区中山下二丁目1番70号

TEL 086-201-5333 (代表)

Eメール: kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ <https://j.kawasaki-m.ac.jp>

## 編集後記

本学は、2022年4月に川崎学園創立50周年記念事業の一つとして竣工された岡山キャンパス新校舎棟に移転してきました。このキャンパスは旧川崎病院の跡地に作られたもので、中山下という岡山市中心部の恵まれた場所に位置しています。新しい学び舎で、学科長メッセージにもあるように看護学科、医療介護福祉学科ともに教育内容に磨きをかけ、さらなる発展を目指しています。

本誌も今号より「広報誌」から「学報」へ名称変更するとともに、Web媒体のみの発行とさせていただくことになりました。これを機に、受験を目指す高校生の皆さんをはじめ幅広い方々に本学のことを知っていただき、興味を持っていただける誌面づくりを目指していきたいと思っています。

今号の表紙には、2016年に開院した川崎医科大学総合医療センターと並ぶ本校舎の写真に掲載しました。夜景もきれいですので、お買い物のついでにでも実際にご覧ください。

最後になりましたが、実習などで大変ご多忙な中、快く記事を執筆してくださいました皆様へ深く感謝申し上げます。  
(看護学科 熊野 一郎)



夜の新校舎棟